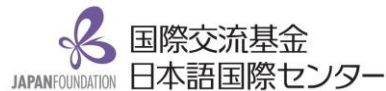


## 学習を評価する

### Unit 2 実践編 Part 3 ポートフォリオ評価



#### はじめに

テストによって、学習の結果は確認できますが、学習者の学習過程を知ることはできません。

学習の過程で、学習者はさまざまなことを学びます。学習過程を評価することは、学習者が良い学習を続けるためにも、大切なことです。

このパートでは、学習過程の評価方法として、ポートフォリオ評価を取り上げます。ポートフォリオとポートフォリオ評価の目的を理解し、ポートフォリオ評価の実施方法を理解しましょう。

#### 1. ポートフォリオ評価の考え方

学習者は様々な力を持ち、一人一人が努力をして成長しています。あなたの学習者の中には、自分で日本や日本語についていろいろな情報を集める人や、小説や論文を読むことが好きな人、日本語を使うたくさんのコミュニティを持って交流している人などがいるのではないのでしょうか。たくさんのイベントやサークルでいろいろな体験をする人や、SNSを使って日本語でたくさん発信する人も増えています。また、日本語学習の特別な計画を立て、努力や工夫をいっしょうけんめいしながら、学習を続けている人もいるでしょう。言語だけではなく、日

本文化について学び、文化理解の力を身につける努力をしている人も多いはずです。

学習の過程で身につけた様々な力は、学習や社会生活を助けます。テストや授業だけでは、その大切な学習の過程を確認することは難しいですが、ポートフォリオ評価を通して、教師が学習者一人一人の学習過程を評価することが可能になります。



【タスク 1】 本文「1.ポートフォリオ評価の考え方」をよく読んで、ポートフォリオ評価の対象にできる、学習者のいろいろな活動を書き出してください。

## 2. 言語教育におけるポートフォリオとは

言語教育で使われるポートフォリオとは、一人の学習者の「学習の記録」をまとめて保存したファイルのことです。「学習の記録」とは次のことが分かる資料です。

- 学習の過程：どんな学習・活動・経験をしているのか
- 学習の成果：どんなものを作り出したり、理解したりしているのか

資料の例としては「学習計画」「体験の記録」作文やスピーチ原稿といった「学習の成果物」「自己評価表」「教師による指導の記録」などがあります。

ポートフォリオは次の目的のために使うことができます。



- 学習者が自律的に学習を進める：学習者が学習過程や変化を振り返り、今後の計画を立てることができます。
- 他の人と共有する：自分の学習を説明することができます。
- 学習を評価する：教師がたくさんの学習者を対象に、一回のテストの結果や授業だけで把握することが難しいこともポートフォリオを使って評価することができます。

【タスク 2】 ポートフォリオを作るとしたら、学習の過程と学習の成果について、学習者にどのようなものを保存させますか。今教えているクラスや最近教えたクラスを思い出して書いてください。

|                             |  |
|-----------------------------|--|
| 学習の過程：授業外の学習・活動・経験          |  |
| 学習の成果：学習者が自分で作ったり、理解したりしたこと |  |

### 3. 「テストによる評価」と「ポートフォリオ評価」の違い

ポートフォリオ評価とは、テストで測ることができない力を見ようとするものです。テストは、ふつうは教師が用意し、いつもの授業や日常とは切り離された場面で学習者の力を測り、結果が点数化されます。一方、ポートフォリオ評価で大切にすることは、学習が学習者自身のものだということです。自分で学習について考えて評価する力があれば、その人はよりよい学習を続けていくことができます。また、いろいろな経験をする<sup>いっぽう</sup>ことも学習の一部です。失敗も変化<sup>しっばい</sup>もふくんだすべての過程から、次に何をしたらよいかヒントを得て、より良い学習を続けることができます。そして、学習方法の工夫・努力・意欲や、異文化理解能力などは点数化が難しいですが、日本語の学習だけでなく、生きていく上で大切な力になります。こうした考えのもとで学習を評価しようとするのがポートフォリオ評価です。

【タスク 3】 テストによる評価と、ポートフォリオによる評価の違いを整理してください。①～

⑤に入る適当な語を下から選んで表を完成させてください。

|         | テストによる評価          | ポートフォリオによる評価                             |
|---------|-------------------|------------------------------------------|
| 誰が評価するか | 教師が評価する           | 教師だけでなく、(① )も評価する                        |
| 何を評価するか | 点数化できる学習の<br>(② ) | 学習の(③ )や(④ )も評価する。<br>点数化できない(⑤ )も評価できる。 |

a.成果 b.異文化理解能力 c.過程 d.変化 e.学習者自身

#### 4. ポートフォリオ評価の流れ

図1は、ある中級の日本語コースの、ポートフォリオ作成前から総括的評価までの流れを示したものです。

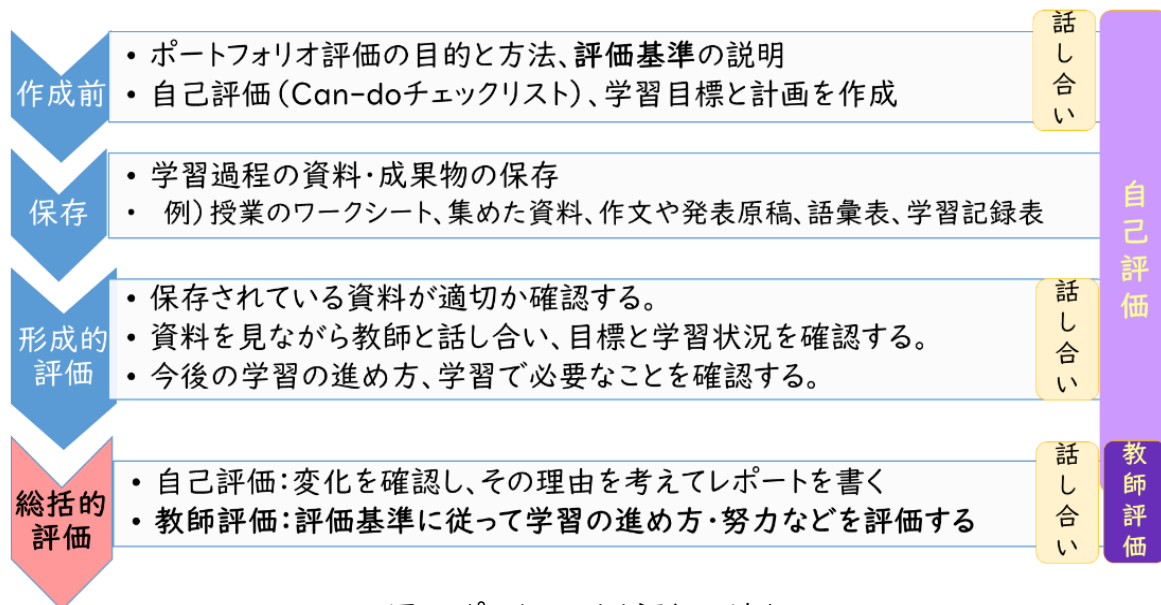


図1 ポートフォリオ評価の流れ

この例では、コースの最初に、ポートフォリオに何を保存するのか、教師が学習者に説明します。順番や構成は学習者が決め、ポートフォリオの中身を自己評価するように促します。作成前と形成的評価の時に、教師や他の学習者との話し合いの機会を設けています。話し合いを通じて、学習者自身がポートフォリオに保存されたものを確認し、それまでの学習過程や成果と課題を内省することを重視します。総括的評価の段階では、教師評価を行います。また、話し合いの場で教師と学習者が一緒にポートフォリオを見ながら、コースでの学習がどのように変化し、どのような成果があったのか、どのように学習を進めてきたのかを確認します。

## 5. 総括的評価で教師が注意すること

教師が行う総括的評価で注意する点があります。まず、評価の基準を学習者と共有しましょう。そして、評価する点は「ポートフォリオの中身から分かること」「学習を進める努力」「目標達成に向かうための学習方法」「学習者の変化と意欲」であることを確認しましょう。もしも、教師による総括的評価が学習者の自己評価と異なった場合は、その理由を話し合い、評価の基準、観点、結果を教師と学習者が合意することが大切です。

コースの途中でも、学習者とポートフォリオを見ながら学習について話し合う場を設け、定期的にポートフォリオ作成の様子を学習者に問いかけることが大切です。小さな機会を何回か作るほうが、コースの最後にまとめてフィードバックを行うよりも効果的で、教師の負担も軽くなるでしょう。

## 6. ポートフォリオ評価を取り入れる手順の例

初めに、評価全体の中のポートフォリオ評価の割合を決めます。例えば、筆記テストが40%、ポートフォリオ評価が30%、授業の出席が30%のように決めます。

次にポートフォリオ評価の対象を決めます。例えば、テストでは測れない力として、学習方法の工夫や学習への積極性などが挙げられます。また、具体的な活動としては、授業の中ではできないけれども学習者が個人で取り組むと良いことを評価の対象にすることができます。

例えば、漢字や語彙の学習や、授業外での様々な交流や体験などです。

こうして評価の対象が決まったら、ポートフォリオに保存すべき資料を決めます。

最後にポートフォリオの評価基準を準備します。ある日本語クラスのパートフォリオ評価の基準を示します。

|                                                               |                         |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------|
| <例： 評価の観点>                                                    |                         |
| 1 学習の工夫                                                       | 学習に自分なりの工夫があるか。         |
| 2 資料の保存                                                       | 決められた資料が整理されているか。       |
| 3 積極性                                                         | 授業外で行った学習や体験の十分な記録があるか。 |
| <例： 判定基準><br>A 十分満足でき、すばらしい<br>B 満足できる<br>C 普通<br>D 目標に届いていない |                         |

評価の観点とは、どのような点からポートフォリオの中身进行评估するのかを示したものです。

この例では、学習の工夫・資料の保存・積極性の3つがあげられています。これら进行评估基準が、判定基準です。この例ではA～Dの4段階になっています。

評価基準は、その課の学習を初める時に学習者と共有しておき、ポートフォリオ作成に取り組む前にポートフォリオがどのような観点を評価されるのかを学習者がよく理解しておくことが大切です。

【タスク 4】 自立学習にポートフォリオ評価を取り入れるなら、上の例の「評価の観点」以外

にどのような観点を取り入れたいですか。「1. ポートフォリオ評価の考え方」

(p.1～p.2)を参考にして考えましょう。

## まとめ

「ポートフォリオ」は、一人の学習者の「学習の成果と過程」の記録を保存するものです。それを使ったポートフォリオ評価では、学習の過程、授業以外の学習を評価します。そして学習者の自己評価や、教師と学習者の話し合いを大切にします。学習者と評価基準を共有しておき、ポートフォリオに保存されたものを見て評価を行います。

ポートフォリオ評価は、はじめは難しく感じられるかもしれませんが、できるところから少しずつ取り取り入れていきましょう。

## ■ このパートの参考文献と参考サイト

- ・ 押尾和美(2020) 海外日本語教師基礎研修におけるポートフォリオの活用について

『日本語教育通信 日本語教育レポート』第42回

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/report/202008.html>

- ・ 国際交流基金(2011)『学習を評価する』(国際交流基金日本語教授法シリーズ12)

ひつじ書房

- ・ 関正昭・平高史成編(2013)『テストを作る』スリーエーネットワーク

## ■ タスクの答え

【タスク1】 省略

【タスク2】 省略

【タスク3】

|             | テストによる評価         | ポートフォリオによる評価                                       |
|-------------|------------------|----------------------------------------------------|
| 誰が評価<br>するか | 教師が評価する          | 教師だけでなく、(①e.学習者自身)も評価する                            |
| 何を評価<br>するか | 点数化できる学習の(②a.成果) | 学習の(③c.過程)や(④d.変化)も評価する。点数化できない(⑤b.異文化理解能力)も評価できる。 |

【タスク4】 省略